

【理学部】令和7年度 学部教学マネジメント報告書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制の変更点 ※計画書から変更があった場合

変更なし

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの改善に向けた今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

① カリキュラムマップ

理学部では、不断の教学改革を行っており、履修コースなどの新設に際して、常に改革する科目がある。例えば、物理科学科の「大学物理のための数学基礎」、「半導体工学基礎」、「宇宙工学基礎」がそれにあたる。特に、「半導体工学基礎」、「宇宙工学基礎」に関しては、学外から講演者を招いて、現代的ニーズに合うように設計した。また、地球気象関係の科目の充実を図るべく「異常気象の未来予測」という科目を開設した。

② シラバス

シラバスへの「8つの資質・能力」の実装は完了している。さらに主要授業科目については、最初の授業で、到達目標や評価の方法を説明するようにしている。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

例年通り、検証の上、見直しを図った。

課題

新入生対象の履修ガイダンスでは、これらのことをしっかりと説明しているが、盛りだくさんになりすぎていて、カリキュラムマップなどについては、新入生の頭に入りきっていないのではないかとと思われる。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化の今年度の取り組みと取り組みを通して明らかになった課題

今年度の取り組み

学習成果実感調査の回収率向上のため、授業内で実施するようにさらに呼びかけ、実施をしてもらっている。GPS アカデミックや、卒業時アンケートの回収率向上のために、事務から頻繁に経過報告をしてもらった。低単位の学生や出席率の低い学生を呼び出して、学習状況を把握するようにしている。事務から POST や電話などでの呼び出しに加え、呼び出しに応じない場合には、教員からも連絡をしてもらうように、教授会で伝達している。

課題

卒業時アンケートの回収率向上には苦戦している。しかし特研で完了できない場合、卒業を控えた学生に連絡が取りづらいことが課題である。低単位の学生が呼び出しになかなか応じない点も課題である。また、障がいを持つ学生に対しての、教育成果の可視化に困難がある。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況の評価と明らかになった課題

評価（授業科目の到達目標の達成状況 および 学生の資質・能力の修得状況）

概ね良好であるが、一部の科目で高い単位未修率が見られ、到達目標に達していないことが伺える。学生が授業に出てこなくなることに原因があるようであるので、引き続ききめ細かな対応が必要かと思われる。

課題

理学部の場合、到達目標をシラバスで丁寧に記載したところで、そこに書かれている概念は授業開始時には学生にとって定義レベルからわからないことが多いことは前々から指摘している。例えば、「特異ホモロジー群のホモトピー不変性を理解する」などと書かれていても、定義からして不明であろう。しかも、その説明を行うには、相当の準備が必要である。科目選択の時にシラバスを参照することは当然であるが、記載内容を理解できているとは言い難い。学生が常々授業とシラバスとの往還を行うことで、往還目標を明確にした学びを行うような声かけが必要である。その点を授業担当者に向けても周知する必要性がある。

アセスメントプランの取り組み

① 結果

これまで、宇宙物理・気象学科のアセスメント科目では「幅広い教養」がカバーされていなかったが、今年度から「特別研究」にてこれをカバーするようになった。

② 課題

特になし。

5. 学部における教学マネジメントの組織体制を踏まえた教員組織の編制方針の見直しの状況

評価（該当する番号にチェック）

- ☒ ①学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえて実施できた。
☐ ②学部における教学マネジメントの検証体制を一部踏まえて実施できた。
☐ ③学部における教学マネジメントの検証体制を踏まえた実施ができなかった。

→②もしくは③を選択した場合はその理由を自由記述欄に記入

自由記述欄

記入例：教員組織の編制方針の策定後、教育課程の見直しを行っていないため、教授会等で審議の結果、現状のままとした。

※この内容は、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP へ掲載します。